植柳の風

八代市立植柳小学校　校長室便り
平成３１年２月１８日　ＮＯ．１２７

面白い・楽しい授業とは

子どもたちに「分かりやすい授業とは？」と聞くと、大抵が「面白い授業や楽しい授業！」と答える。それも真である。でも、ある教育評論者によると、この「面白い」とか「楽しい」は、教師の発する雑談や会話、ダジャレ（おやじギャクも）によるものではなく、「自分が出せる授業」だという。 自分の思っていることを素直に表明し、響き合い、そして真の答えを自分たちで見出していく。その面白さに触れるかどうかが鍵となる。逆の見方をすれば、黒板を背中に先生がしゃべるだけでは到達できない喜びを得たいと言っているように思う。すべての子どもが「自分を出せた授業だった」と言える、そんな授業を目指して、日々研鑽に励みたいものである。

先週、１５日（金）はフライデーゼミナール（自主公開授業）を行なった。私自身、授業には、水泳や跳び箱運動など、ＴＴとして毎年お邪魔していたが、公開授業というと数十年ぶりである。緊張はしなかったが、昔と違って体が動かない、頭が固い、子どもたちとのジェネレーションギャップ（？）がすごい・・・など、果たして最後までできるか心配だったが、「〇〇にへんしん！」という２年生の体育「表現リズム遊び」を公開した。

風船や新聞紙になって体をほぐしたり、だるまさんが転んだゲームやリズムダンスをしたしてウオームアップが終了。ここまでは順調。蝶々やカマキリ、ゾウやネズミの動きを私の指示言葉でそれになりきって遊ぶ場面では、はじめ、中、終りのひと流れの動きを意識しながら活動した。「あー、大変だ」の場面では、ダイナミックに場面を展開する面白さに触れてくれたことだろう。しかし、最後の自分たちで好きな生き物をつくってよい過程になると、座ったまま表現するなど、小さな動きになっている二人組もいた。やはり、空間の認知が不足しており、そういう手立てが必要だったと反省した。ともあれ、二人組同士で自分たちの作ったひと流れの動きを見せ合うことまでなんとかできて、授業はあっという間に終了した。

放課後の「ミニ懇談会」には、たくさんの先生たちが参加された。「表現運動の評価は？」「めあて学習の捉え方は？」など、質問が相次いだが、これまでの経験を踏まえ、表現運動の考え方などを紹介しながらお答えした。本校の先生たちに、「表現運動って、指導は難しそうだけど、子どもたちが面白い、楽しい授業だと感じている。だから、まずやってみたい！」と思っていただければ幸いである。

１６日（土）、合志市立南が丘小学校で開催された体育研究フェスティバルに参加し、長年、ボール運動の研究に取り組んで来られた信州大学　岩田　靖教授の講演を拝聴したが、目からうろこだった。岩田教授は、教材やルールに子どもを合わせるのではなく、子どもの実態に教材やルールを合わせろというのだ。ボール運動は、ボールが丸くて操作性が難しく、技能の上手な子が活躍し、そうでない子はボールに触れることもなく楽しめていない。だったら、ルールを工夫したり、ボールを球体ではなく、ホッケーのような平べったりものにしたらよりすべての子どもが楽しめるようにできるということを提案された。

面白い・楽しい授業を作るためには、まだまだ修行が必要だと感じた研究会だった。